



2007 ~ 2008 年度  
R I テーマ

# ROTARY SHARES

## ロータリーは分かちあいの心

国際ロータリー会長 ウィルフリッド J. ウィルキンソン(国籍・カナダ)

2720 地区

### 別府中央ロータリークラブ



例会日 火曜日 12時30分  
 ところ トキ八別府店 7F ぼたんの間  
 TEL 23-1111  
 事務所 別府市西野口町1番1号 青山通りビル3F  
 〒874-0931 TEL (0977) 23-9000  
 FAX (0977) 23-9019  
 http://www.beppu4rc.jp/chuo/  
 E-mail:info@beppu4rc.jp

理事	平野英壽	理事	梶田健治	役員	会長	森 宗明	S A A	上妻 浩
"	村津忠久	"	河村貴雄	副会長	平野英壽	直前会長	上妻 浩	
"	津末美代子	"	後藤孝弘	幹事	大島由美子			
"	後藤 隆			会計	近藤賢司			

VOL . 20 - 29  
2008年2月19日

## 第 901 回 例 会

会報委員長 徳丸 一郎

点 鐘 12 : 30

国 歌 君が代

R S 奉仕の理想

唱 歌 冬景色

ゲ ス ト 広瀬勝貞氏 (大分県知事)

ビ ジ タ ー 後藤基経 (大分1985 R C )  
 小野逸郎 (大分東 R C )  
 大野 豊 ( " )  
 仲道俊寿 (大分城西 R C )

### 出席報告

委員長 中島 澄人

本 日 の 出 席	会 員 総 数	25 名
	出 席 者	18 名
	事前メイクアップ	2 名
	理 事 会 承 認	0 名
	出 席 免 除	0 名
前 々 回 の 訂 正	出 席 率	63.64 %
	事後メイクアップ	2 名
	理 事 会 承 認	0 名
	出 席 免 除	0 名
	修 正 出 席 率	81.82 %

連 続 - 回  
通 算 730 回 100 %

### 会長の時間

会長 森 宗明

本日は別府市内4ロータリークラブの合同例会です。

昨年まではガバナー公式訪問をかねていましたが、本年は合同例会のみと言うことで、卓話に広瀬勝貞大分県知事をお迎えしました。

後ほど卓話をいただきますが、知事には公務ご多忙の中、快くお引き受けいただき感謝申し上げます。また市内4ロータリークラブの会員の皆様にも、多くご参会いただきましたこと、重ねて感謝申し上げます。本日はこの後プログラムも多ございますので、私のご挨拶を早々に終わらせていただきます。

### ・メイクアップ

事前 河村、溝部 (別府)  
 事後 梶田 (別府)、近藤 (別府東)  
 欠席 衛藤、梶田、上妻、津末、徳丸

### 幹事報告

幹事 大島由美子

- 世界理解月間 -

本日は、当別府中央 R C のホストにより

【別府市内4 R C 合同例会】を開催致します。  
 於：杉乃井ホテル 本館7階 「観海の間」

### 1. 本日の卓話

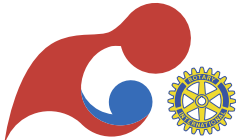
「別府ツーリズムの振興」

大分県知事 広瀬勝貞氏



2. 本日のゲスト  
ひろせかつさだ  
広瀬勝貞氏 (大分県知事)

3. 2008 - 2009年度 R I テーマ



Make Dreams Real (韓国・ソウル漢江 R C )

夢をかたちに  
2008 - 2009年度  
国際ロータリー会長  
李 東建氏  
(Dong Kurn Lee)

4. 例会変更のお知らせ

日出 R C 2月26日(火)の例会は、新入会  
員歓迎例会の為 同日19:00~  
はんなりの香暮家に場所変更

佐伯 MARINERC 2月29日(金)の例会は、献血例  
会の為 同日9:30~和楽・県  
南部振興局・九州電力佐伯(営)に  
時間・場所変更

5. 次週の予定

『第3回クラブ協議会』

『会員コラム』 木村きぬ系会員

6. 本日の回覧

「第3回クラブ協議会」出・欠席

7. 本日の配布

週報 900

別府市内4 R C 合同例会 プログラム

「ロータリアンの奉仕」

鳴海淳郎 R 情報委員長



卓 話

大分県知事 広瀬 勝貞

別府ツーリズムの振興

今日は別府のロータリークラ  
ブの皆様にお招きをいただき、  
ありがとうございます。皆様  
方には日頃から自然に溢れ出る  
善意の気持ちで、社会のために  
奉仕活動をしていただき、心か  
ら感謝しております。皆様の善  
意にどれだけの方が助けられて  
いるか、どれだけ  
の子供たちの健全育成に役立っ  
ているかということ  
を考えますと、本当に頭が下がります。



今日は、私、テーマについてちょっと後悔をし  
ておりまして、皆様方のお顔を拝見しますと、別  
府のツーリズムを支えておられる方ばかりであり  
まして、私が皆様に別府のツーリズムのお話をす  
るのは誠に恐縮ですけれども、もうここまで参り  
ましてカレーもごちそうになった以上は帰るわけ  
にもいきませんので、むしろお礼を込めてお話を  
させていただきたいと思っております。どうぞよろしく  
お願いします。

さて、県では毎年観光の統計を取っております  
が、平成18年の大分県全体と市町村別の宿泊客  
数を調べてみますと、県全体で782万人が宿泊を  
して、その内別府には実に393万人が泊まってい  
るということです。要するに大分県の宿泊客のう  
ち半数が別府で宿泊をしています。私はいつも、  
大分県は観光立県だ、ツーリズムで県を立てるの  
だと言っておりますが、その中心はやっぱり別府  
だということです。つまり、別府の皆さんが奮起  
して観光を振興していただくと、それが大分県全  
体の観光振興につながるということです。その意  
味で、私はいつも別府の皆様方の観光に対する活  
動に注目し、また応援をさせていただいております。

さて、その宿泊客についてももう少し分析してみ  
ますと、3つの特徴があります。

1つは、近年の日本全体の特徴かもしれません  
が、50代以上の方が大変多いということです。  
大分県の宿泊客を調べてみますと、50歳以上の  
方が、男性の場合には24%、女性の場合には32%、  
合わせて57%ということになります。これからの  
観光は、きっと団塊の世代が中心になると思いま  
すが、そのあたりがひとつの狙い目と言えます。

2番目の特徴は、女性のウエイトが高いという  
ことです。女性の宿泊客は、20歳から34歳まで  
が16%、35歳から49歳までが10%、そして50  
歳以上が32%ということで、合計で58%になり  
ます。大分県のお客さんは、女性が結構多いとい  
うのが第2の特徴です。このところもよく押さ  
えておかなければなりません。

3番目の特徴は、外国人が多いということです。  
県全体の外国人宿泊客のうち別府の宿泊客は6割  
以上を占めておりまして、大変多くの外国人が別  
府を訪れています。



50代以上の方、女性、そして外国人というところが、これからの観光の狙い目ではないかと思っています。

また、観光客、旅行者の好み、あるいは志向と言っても良いかもしれませんが、これが随分変わってきております。

社会経済生産性本部の「2007年レジャー白書」によりますと、1つ目の変化は、有名観光地を目指す観光から、例えば自然が好きなら自然、鳥を見たいなら鳥、温泉に行きたいなら温泉ということで、自分の興味本意で行き先を選択するようになってきたということです。

2番目の変化としては、物見遊山の旅から、行った先での人との交流だとか、あるいは参加型の旅行というものを選択するようになってきたということです。

そして、3番目の変化は、バックでグルッと一回りするというような効率の良い旅から、むしろ自分なりののんびりした旅行を選択するようになってきたということです。

そういう好みの変化をしっかりと捉えることが、これからの我々の観光振興で大切ではないかと思っています。

私は、このような日本人の旅行、観光に対する志向の変化に対して、別府は非常に良い位置にあるのではないかとと思っています。今別府観光の再生が随分進んできていますが、これは時代の流れをうまく汲み取った取り組みをしているからではないかと思っています。

1番目の、自分の好みで観光をするということに対しては、別府の皆さんは以前から「別府八湯オンパク」というプロジェクトを組んでおられます。このオンパクの目玉は100種類以上のいろんなプログラムを作りまして、お客さんのどんな好みにも対応できるようにやっているところです。これが大変お客さんの人気を呼んでいるわけで、押しつけの旅行じゃないところが今の時流に大変合っていると思います。

先程、これから50代以上の旅行者が多くなりますと申し上げましたけれども、この50代以上の方の好みを調べたデータがあります。それによりますと、まず、せっかく行くなら美味しい食べ物を楽しみたいというのが1番です。それから、日頃味わえない温泉の気分を試してみたいというのが2番です。このあたりを考えてみますと、別府は本当にぴったりはまっているなという感じがします。

食べ物については、別府のホテルや旅館の皆様方が大変工夫をして、今本当に美味しいものが出るようになってきました。いつも私は感心していますが、これはきっとお客さんを満足させる第1の要諦ではないか思います。それから別府にはもう一つ、B級グルメと言いますが、昔ながらのカレーやトンカツを楽しんだり、ラーメンを楽しんだりということもできるということで、なかなか面白いなと思います。

50代の方が好む第2の要諦は温泉ということ

ですが、これについては今さら申すまでもありません。別府は八湯、8つのいろんな温泉があり、どれもより取り見取りだということが言えるわけですし、もう一つは、別府の皆様がその中で伝統に眠らずにいろいろ時代の要請に合った改革をやっているということです。鉄輪温泉が国土交通省のまちづくり交付金を使って全体的なりニューアルをやり、先頃「まち交大賞」を獲得しました。一時に比べて、最近本当に鉄輪は観光客が楽しめる街になったなと感心しています。

それから別府には、これはもう日本で他には見られない湯煙の風景がありますけれども、これも皆様方が大事に守りながら、今また重要文化的景観の登録に向けた動きを始めています。そういう温泉を巡るいろいろな改革や売り込みをやることで、温泉を楽しみたいというお客さんを確実につかんでいけるのではないかと思います。

好みに合ったものを創っていくことも大事ですが、もう一つ、お客さんの好みを引っ張り出すというのも大事なことはないかと思えます。そういう努力も随分皆様方にやっていただいております。別府の女性の元気を示すものに「別府宵酔女まつり」というのがありますが、別府の秋の風物詩として大変楽しい祭りになっています。これは、「やはり別府に行くとなんか楽しいな」という思いにさせるイベントだと思えます。また、冬の花火も本当に別府ならではのいいものだなと思えます。寒さで凍える冬にあの花火をやって、しかも別府の温泉につかって花火を見物すると、お湯の温もりがずっと続いて全然冷めないことも実感できるわけですし、あれも随分良いなと思えます。

また最近、別府大学で「大分香りの博物館」をお作りいただきました。昔、お客さんの来ない山の中にありましたが、あれでは駄目だということで、その中身を引き取って、これを別府で展示いただきました。これは大変良い見物の場所ができたなと思えます。

こういう見て楽しいものを作って、人様を呼び込みむということも大事なのだと思えます。どうやってお客さんを引き込むかということ、お客さんの好みをどうつかんでいくかという努力も、これからやっていただかなければならないと思えます。

もう一つ、先ほど観光の好みが参加型、あるいは人との交流型に変わっていると申し上げましたが、これについても別府の皆さんは大変よく考えておられるなと思えます。もう随分歴史が出来てきましたけれども、地域の人と交流をしながら散策を楽しむ「路地裏散歩」というものがあります。





これも時代を先取りした良いプロジェクトだったのだと思います。また、別府を観るだけではなく、安心院のグリーンツーリズムや県南のブルーツーリズムとタイアップして、参加型の、あるいは交流型のツーリズムを仕立てて行こうというような努力もやっていたらいいと思います。

それから、効率的に見るよりものんびりしたいという好みがあると申し上げたことについても、最近では別府の皆さんはいろいろ考えていただいています。

1つは、別府八湯は何と言いましても、あらゆる温泉の成分が含まれていますので、いろんな健康志向の皆さんを呼び込むことができますし、合わせてファンゴ・マッサージといったようなものもあり、なかなか良い物を作っていると思うわけです。のんびり健康的な旅を楽しみたいという人に対するニーズにどう応えていくかということも、これから大事なのではないかと思います。

また、外国人をどうつかむかということも大切なテーマです。ビジット・ジャパン・キャンペーンと申しまして、外国人観光客に日本にたくさん来てもらおうという運動がありますが、先日、その一環として「ようこそ！ジャパン大使」というのを何人が選んだわけです。これは、その中の1人で韓国人の李さんという人の話ですけれども、日本に来る韓国人の求めるものは3つあるのだそうです。1つは温泉。2番目はゴルフ。3番目は、これは意外だったのですが、お酒だと言うんですね。この3つが揃っていることが非常に大事なんだと言っておられました。別府はどれもこれも揃っていると思った次第です。

今、韓国や中国の観光客が大変に増えております。これは決して別府だけではなく、日本全体として増えています。これはどうしてかと言いますと、ウォンや元が非常に高くなりまして、彼らにとって海外旅行が以前より安くつく時代になってきたからです。この傾向はしばらく続くのではないかと思います。そういう意味では、アジアの玄関口をもって任ずる九州や別府は大変に恵まれた位置にあるのではないかと思います。これから外国人を獲得する努力も大変大事なことだと思います。

50代以上の方々、女性、そして外国人と、この3つを狙い目として、これからも別府の観光振興に皆様方のご奮闘を是非お願い申し上げたいと思います。

それから、この機会に皆さんにもう1つお願いがございまして、申すまでもありませんが、いよいよ今年は大分県で国体と障害者スポーツ大会が開催されます。この別府では国体では水泳、サッカー、体操・新体操、セーリング、自転車、バレーボールと、いずれも大変に華のあるゲームが開催されることになっています。また、障害者スポーツ大会ではバレーボール、卓球、ソフトボール、グランドソフトボールが開催されることになっております。この両大会、何としても所期の成果を

上げなければと思っているところです。

目指すところは2つありまして、1つは、やはりせっかくの競技会ですから、競技の場で立派な成績を上げるということです。国体では男女総合優勝、天皇杯の獲得というのを何としましやり遂げなければならないと思っています。先日、秋田の県知事さんが国体の縁で大分県に来られまして、あるイベントで挨拶をされた中で「皆さん、国体では何といても優勝しなきゃ駄目ですよ」なんて言うておりましたけれども、我々も何としても優勝したいと考えております。今、選手強化に最後のムチを入れているところです。

もう1つの狙いは、せっかく県外からたくさんの方が来ますことから、是非国体を明るく楽しいものにしたい。そして、この大分県の明るく楽しい元気を全国にアピールしたいということです。そういう意味で、県民の皆さんに「出る」見る」「支える」、どの段階でもいいのですけれども、是非この国体や障害者スポーツ大会に参加をしていただきたい。

選手として「出る」のもよし、応援に来て競技を「見て」いただくのも大変にありがたい。また、別に会場まで行かなくても、空港や駅等で県外の選手たちに、どうせユニフォームを着ているので一目で分かりますから、そういう人に「ようこそ大分にいらっしゃいました」と挨拶をしてあげる、「頑張る」と激励してあげる、もうそれだけで「大分県は良いところだな」ということになるわけです。「別府は良いな。もう1回来てみよう」という気になるわけです。是非そういう歓迎の気持ちを表していただくようお願いいたします。

「支える」ということでは、県民の皆様が大変にお世話になります。駅から会場に向かう道筋は、やっぱりゴミがあるよりない方が良く決めてあります。そして、その道筋に花がいっぱい植えられていたら、「俺たちは歓迎されているのだな」「大分県の人にはホスピタリティあふれる人だな」というふうに思ってくれるわけです。

そういうことも大いにやっていきたいと考えていますが、いよいよ本番になりますと、県が開催するとか市が開催するというのではなく、むしろ県民の皆さん自身がこの国体の成否を決めるということになります。「出る」「見る」「支える」、いずれの段階でも結構ですから是非参加をしていただいて、そしてこの国体と全国障害者スポーツ大会が所期の成果を上げられるようにご協力を賜われれば誠にありがたいと思います。

最後はそのことをお願い申し上げます。そして、この卓話を終わりにしたいと思います。ありがとうございました。（拍手）

